

令和8年8月号

川越セントノア病院 〒350-1155 埼玉県川越市下赤坂290-2
TEL049-238-1160 FAX049-238-1162 <https://www.saintnoah-kawagoe.jp>



ノアの爽^{かぜ}風



～目次～

- 病院短信『安心して過ごせる環境づくり』
- 看護日誌
- 介護だより
- 日常の一コマ

8月の予定

◆誕生日会&スイカ割り

1病棟: 7日(金) 14:00～	} 各病棟にて
2病棟: 6日(木) 14:00～	
3病棟: 5日(水) 14:00～	



誕生日会&セタ&おやつバイキング



誕生日会



わなげ大会く〜'>



みんな上手(*'ω*)



おやつバイキングはいつでも笑顔いっぱいですね(*'▽')



セタ(＃＃＃)



『安心して過ごせる環境づくり』

青空がまぶしく、セミの鳴き声が夏らしく感じる季節となりました。暑い日が続いていますが皆様体調はお変わりありませんか？暑さに負けない体づくりを心がけながら、8月も元気に過ごしていきます。

さて、セントノア病院も6月よりマスク着用が任意となりました。風邪が流行り病棟ではなかなかマスクを外す機会が無かったのですが、ふと外して患者さんやご家族の方とお話すると、表情も良く見えて会話も進み、コミュニケーションの幅も広がりました。大切なのは「着ける・外す」を場面に応じて選ぶこと。感染症対策はマスクだけではありません。手洗いや換気・咳エチケットなどを組み合わせることでより効果が期待できます。一人一人が状況に応じた対策を心がけ、お互いを思いやる行動を続けることが安心して過ごせる環境づくりにつながると思います。

また、安心して過ごせる環境づくりでは、各病棟でユマニチュードを用いています。ユマニチュードとは、フランスで生まれた認知ケアの技法で「人間らしさを大切にする」という意味があります。看護や介護が必要な方を1人の人として尊重し、安心して過ごしていただくた



日常のーコマ

今月は3病棟の絹子さん（89歳）です。絹さんは東京都出身で、8人兄弟の5番目で生まれました。中学校卒業後、家業の海苔養殖の手伝いをしていました。25歳の時にお見合いでご結婚され、娘さんが誕生しました。娘さんのお話では、きれい好きで掃除が得意で、娘さんが大きくなられてからは掃除のパートに出ていたそうです。また、夫婦仲も良くご主人は絹子さんの面倒を見ていたそうです。娘さんのご結婚後は2世帯住宅で双方で行き来をして、旅行にも2世帯で行っていたとのこと。平成20年に娘さんの友人から会話がおかしいと指摘され、クリニックを受診しアルツハイマー型認知症と診断されましたが、家事も問題なく生活されていました。平成27年頃から窓からゴミを投げる・犬のリードを付けずに散歩するといった認知症状が出始め、平成28年に幻視が始まりカーテンに向かって怒鳴ることも見られました。また愛犬が亡くなると、デイサービスに行きたがらなくなり、食事拒否もみられ、ショートステイを利用するようになりました。ショートステイ先でも介護拒否・異食・徘徊と認知症が進んでしまい、当院を紹介され令和1年7月にご入院されました。

入院当初は歩行自立、食事はセッティングすると自身召し上がっていました。また、独語や大声が昼夜問わず聞かれ、夜間は声が通るので他の患者さんが気になってしまうこともありました。歩行も日中は病棟内の廊下を徘徊し過ごしていくなかで腕の関節の拘縮が見られ立位が不安定になってきたところで転倒が続き、徐々に車いすで過ごすことが増えました。それでもスタッフが両脇で支えることで歩行ができたので、トイレ誘導時や活動の時間には積極的に歩行介助し支援しました。絹子さんの頑張りもあって歩行が困難になっても立ちあがり支えることで立位が保つことができたので歩行困難になってもトイレまで介助をしていました。入院時より言葉でコミュニケーションが取ることが難しかったので非言語的コミュニケーションといって言葉以外のサインも読み取り関わってきました。スタッフの理解しようとする姿勢もあってか入院してから大声が減り精神症状が落ち着いているように思えます。また、ご家族の面会時には、いい音でおせんべいを食べられていたのがとても印象的で、その音がとても綺麗と感じていました。ご入院から7年が経過し、病状の進行などに伴い全介助の生活となり、よく食べられていたおせんべいも摂取が難しくなり、あのせんべいの綺麗な音が聞けないと思うと少々さみしいです。今後も絹子さんの表情や声色等注意深く観察し安心できるよう引き続き支援していきたいと思います。

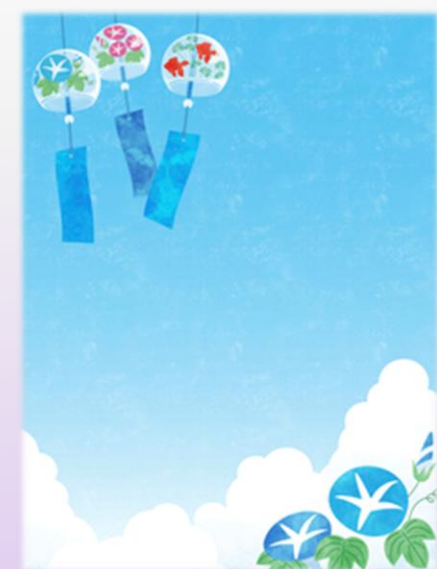
看護日誌

8月は気温と湿度が高く熱中症や脱水が多い季節です。屋外だけでなく室内や夜間も要注意です。のどが渇く前にコップ1杯の水をこまめに飲みましょう。また、食事が減っている方は脱水になりやすいため、スープやゼリーなどで水分と塩分を摂る工夫も必要です。看護・介護する側も暑さと疲れが溜まりやすい時期です。食事を抜かない・冷たい物ばかり摂りすぎない・短時間でも休憩を入れるなど、自分の体もいたわりながら、業務に務めていきたいです。



介護だより

ひとときわ敵しい日差しが照り付ける季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか？病棟では暑さに負けず患者さんが元気にリハビリやレクリエーションに励んでおります。8月の誕生日会では、スイカ割りや催され、毎年患者さんをはじめ、スタッフも一緒に盛り上がり、夏を思いっきり楽しんでいきます。敵しい暑さはしばらく続きそうですが、患者さんが体調を崩さぬよう気を付けるとともに、私たちスタッフ自身も体調管理に努めてまいりたいと思います。ご家族の皆様におかれましても、体調を崩されぬよう、くれぐれもご自愛ください。



めの考え方です。認知症の方は周囲の状況が分からず、不安や恐怖を感じることが少なくありません。そのため、一方的に声をかけられたりすると、驚いて拒否や興奮につながる可能性があります。ユマニチュードでは、相手の気持ちに寄り添い、安心感を与えながらケアを行うことを大切にしています。ユマニチュードを活用する上で大事なものは「見る」「話す」「触れる」「立つ」の4つの柱があります。「見る」とは、相手の視線に合わせ、言葉で「触れる」はやさしく広い面で触れる。「立つ」は自分の力で立つことを支える。特別な道具を使う技術ではなく日々の接し方を少し工夫することです。実践できます。「何をしてあげるか」ではなく「どのように関わるか」を大切に相手の尊厳を守り、その人らしい生活を支えるために日々の関わりを見つめ直してみませんか？小さな声掛けや優しいまなざしが安心と信頼を育み、笑顔につながる一歩となるでしょう。